囚徒おぼえ書（連載第十一回）

弥陀初会（みだしょえ）

二十四分会（本所）　武松輝男

昭和四年三月九日午後五時四十分、宮ノ原坑で小規模なガス爆発が起こった。そのガス爆発が堆積炭塵に誘発引火した。原因は煙草であった。

その年には、三十四人が即死、十六人が昇坑後死亡。重傷は六十一人、軽傷千六百九十二人であった。そのうちガス炭塵爆発が因子で即死したのは十人、昇坑後死亡一人、軽傷六人であった、と記録された。

その年、宮ノ原坑には良民坑夫千五十六人、囚徒坑夫三百八十一人が在籍していた。死亡、負傷者の数が在籍坑夫数を凌駕（りょうが）する、そういうヤマであった。良民坑夫に仲間入りした囚徒番号七十号は、その日二番方で二坑から入坑した。そして竪坑々底からおよそ千六百五十メートルの下底、舎所属五十五片の柱引き採炭に従事した。

柱引き採炭は、盤圧支柱用の炭柱を削り取ることであった。柱引き採炭が進渉し、炭柱がしだいに細くなるに従って、盤圧力が増してくる。その盤圧が限度以上に大きくなると、炭柱を粉化し破壊する。その粉化破壊を防ぐために、炭柱に接近させて、六尺坑木で実木積を行っていた。

昨日地鳴りがあった。そして炭柱に縦に亀裂を走らせていた。このまま柱引きをつづけていけば危い、そういう気持が七十号にあった。しかし、木積みを並列するとそれに要する時間分だけ採炭量が減る。それも気になった。二番方で並列木積みをすれば、三番方が安全に石炭を採れる。それは損であった。

「三番方のために採炭賃銭を減らすことはない」

だから削り取れるところまで削る。そういうことにした。

炭柱に、再び亀裂が走った。石炭が飛んだ。激しい地鳴りがした。坑道が揺れた。まるで体中の血が凍るような鳴り方であった。

「ふう！」

大きく息を吐いて、七十号は身振いをとめた。

天盤は驚くほど膨んでいた。そのように見えた。七十号には、たしかに膨んだように見えた、と思った。七十号が見えたと思ったその膨みは、天盤が崩落してくる急激な落下現象であった。逃げることができない、そのような早さであった。崩落してくる天盤は、すでに目の前にあった。地球が一気に縮まってしまったようであった。

「ああ！」それだけ言うのが精一杯であった。

激しい地響きが坑道を埋めた。吹き上げられた粉じんが、再び地盤に舞い降りた。そのあとに、天盤の黒々とした穴と、静寂が残った。施枠にかけていた安全灯は、崩落の圧風にゆれたが、灯は消えなかった。その灯は、天盤にあいた空穴を照らしていた。

崩落による体の痛みはまるでなかった。ないはずであった。頭顔面骨が骨折していた。両側助骨、骨盤、脊柱骨、大腿骨、両側足根骨も骨折していた。脳も腸管も脊髄も損傷していた。即死であった。安全灯が照らす崩落の現場へ黄色い粉じんが流れてきた。安全灯の焔が次第に細くなっていった。ガス炭塵爆発の跡ガスであった。跡ガスは、安全灯の焔も消してしまった。暗闇になった崩落場所は、岩盤の下に人間を抱えこんだまま、静まりかえっていた。

過去を捨てた七十号の墓石は、真中の列の北から八番目にあった。たとえ崩落に会わなくても、安全灯の消えた暗闇の坑底で、跡ガスに生命を断たれた、そう思ってあきらめるほかに、女に残された道はなかった。

短い生活であった。それでも万一から始まって、貧しさに泣きながらも豊かな過去であった。それらを思い出すたびに、胸の高鳴りを覚えた。誰にも渡さない。女は石鑿で墓石の七十を掻きとった。

落盤

短歌　蟻の町の聖者

二十分会（三川）　町佳郎

憤る声広がりゆきぬ職場内に一万に満たざる妥結聞きしのち
赤字補塡にはいまだ及ばぬ賃上げに深きため息も押えがたかり
没（い）り陽背にれんげ田を馳けくる吾子二人摘みたる小花にぎりしめつつ
みみずなど出でくればよけて掘り起すつつじ二株を買い帰りきて
矢がすりのわが姉の姿の思ほゆる若き日医の勉学に励みいたりき
暖もなき戦時下の療舎に乙女らの毛布かむりてひたすら机（き）に寄りいしという
戒厳の故国ポーランドを憂いつつ蟻の町の聖者はひそかに逝きぬ
修道士・ゼノさん逝去
連休も雨とし聞けば子のみたりうかぬ顔してテレビに向う
痛む腰かばいつつ籠りぬ三日程朱なるポピーの開き初めいつ
腰痛めば思いいし家（や）仕事も手につかずおおかたは妻にまかせきりたり

安見月

四月末から五月初めにかけての連休を楽しみにしていましたが、あいにくのくもり空で、時おり雨もぱらついていましたが、以前から家族旅行を計画していましたので、雨にもかかわらず予定通り実行しました。

目的地は八女の「新茶まつり」です。さすがに連休とあって、国道は車の列がつづき、かなりの時間をかけての到着でした。

途中で花の市場に立ち寄りましたが、サツキのほか、キンモクセイ、ツゲ、マツなどの苗木や、バラ、エビネラン、オモトなどもあり、全部で二十万本が展示・即売されており、目を楽しませてくれました。

また、黒木のフジも見事に咲き

新茶の香り

東ブロック　一主婦

茶どころ八女に新茶の香りが漂って、身も心も豊かに満たされた楽しい一日でした。

ありません。

子供たちと一緒の家族旅行は、命の洗たくであるとともに、家族の語らいの中から主婦会の活動やお父さんの職場のことなどを理解し、今のささやかな平和を踏みにじろうとする、政治や社会へ目を向ける反省の場ともなった一日でした。

子供たちへ、平和な社会をひき継ぐためにも、これからも主婦会運動をつづけていきたいと思っています。

×　×

毎日、仕事や活動に追われ、子供たちともゆっくり語り合える余裕のないこのごろは、皆さんも同じだと思いますが、私も例外では

健康クイズ

アルカリ万歳？

○…次の中からアルカリ食品を三つ選ぶとしたら？

① 玄米
② バナナ
③ 梅干し
④ 帆立貝
⑤ 牛乳
⑥ 小麦粉

正解は、②、③、⑤、健康にいいともてはやされているアルカリ食品。ちょっと難しくいうと、食品中に含まれる無機質のうち、ナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウムなどがリン、硫黄、塩素よりも多く含まれている食品のことです。その反対は酸性食品といいます。

▼ドクターひとくちアドバイス

結論をいうと、毎日アルカリ食品を食べても血液の変化はありません。体の中でうまく調整されて中性を保つようになっているからです。食品のとり方によって変るというのは、多くの場合いかさま食物のウソの宣伝ともいえます。

ですから、それほど目くじらを立てずに、アルカリ食品の考え方は広く栄養のバランスをとるといった程度にとらえればいいのではないでしょうか。「肉を食べたら野菜も食べましょう」というように考えればいいわけです。

第10回　三池にまなぶ婦人集会と交流

「三池にまなぶ婦人集会」の会全国協議会は今年で十回目をかぞえますが、たたかうための連帯をいっそう強めるために、交流を深め学び合いましょう。

集会名称　第十回三池にまなぶ婦人集会

主催　労働大学まなぶ友規模　百十人

日程
第一日目　主婦会員との交流（民泊）
第二日目　組合員との交流（民泊）
第三日目　総括集会

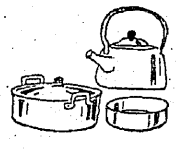
生活メモ

好みの具で食べよう

すし飯　おいしいたき方

すしは、日本独特のごちそう。これからの季節には、ますますおいしくなります。すし飯さえ上手につくれば、具はなんでもけっこう。新鮮な魚介類や、山菜、キノコ、ハムやチーズの類までなんでも合うのがすし飯です。大昔は、米飯自体を発酵させてすっぱくした「なれずし」でしたが、江戸時代から合わせ酢をまぜる「早ずし」という今日の作り方になりました。

米は、上等のすし米を使うにこしたことはありません。しかし、普通米でもたき方で、それなりの味は出ます。四人前なら米三カップを前夜のうちにとぎ、水をきっておき、少々固めにたきあげます。たくときの水の代わりに、こんぶだし汁と酒少々を入れると、味がよくなります。たき上がる前に合わせ酢を。酢は大さじ四～五杯、塩小さじ三杯、砂糖大さじ二～三杯をよくまぜます。蒸し上がったご飯に合わせ酢をふりかけ、扇風機かウチワの風であおぎながら、シャモジで十字に切るようにしてまぜます。手早くやること、まちがってもご飯をこねくり回さないことがコツ。

シャッキリしたすし飯ができれば、好きな具を使って、にぎりよし、チラシよし、押しずし、まぜずしといろいろできますが、家庭で一番簡単にできるのは手巻きずし。手ごろな大きさに切った焼きのりにすし飯をのせ、各自が好みの具をのせて巻いて食べます。小さい子でも手を汚さず、自分で巻けるので喜んで食べます。

【連合】